

民謡や三味線の魅力を届けたい

こぶしが光る。真剣なまなざしで貞方さんが唄うのは、歌い継がれる熊本の心「八代おざや節」。8月11日・12日に東京都で開かれた「民謡民舞少年少女全国大会」直前。稽古に励む姿は真剣そのもの。

民謡と三味線を始めたきっかけは、南豊崎公民館で開かれた「子ども三味線教室」に体験に行ったこと。「はまった」と言います。難しい曲が弾けるようになる喜びが、三味線を好きな理由。「三味線はいつも無心で弾いている。唄と音がつぼる(合う)とうれしい」と微笑む貞方さん。

初めて一人で舞台に立ったのは12歳。長崎県天龍姫大神講社の舞台でした。民謡民舞少年少女大会の県大会では準優勝。そして、今年初めて全国大会にも挑戦しました。

「多くの人に伝統芸能の魅力に触れてほしい。同世代の人にも興味を持ってもらえたら」と若き唄い手は今日も撥を手に取ります。

伝統芸能を受け継いでゆく
同世代の仲間を増やしたい



profile

平成30年度 民謡民舞少年少女全国大会出場

さだかた たかひろ
貞方 崇寛 さん

平成17年1月17日生まれ。松橋中2年生。小学5年生のときに三味線を体験してから三味線と民謡のとりこに。流派は竹峰流。趣味は三味線と4歳から続けているサッカー。好きな曲は「千本桜」。将来の夢は獣医師になること。

宇輝人
vol.31

宇城市で輝くあなたを紹介



- 1 全国大会前に市長らを表敬訪問。
- 2 全国の舞台でもこぶしを響き渡らせました。
- 3 真剣なまなざしで稽古。

